



N
A
G
A
O
K
A
K
E
I
K
A
N

景観ってなんだろう？

普段、私たちの生活の中で耳にする『景観』とは、いったいどんなものなのでしょう？
「景色」や「風景」という言葉は知っているけれど、『景観』って…？
そこで、『景観』について市民の皆さんにアンケートを実施しました。

Q.「景観」とはどんなものか知っていますか？

『はい』と答えた人の意見は、

- ・海外などのきれいな景色。
- ・四季が感じられる自然景観、歴史のある建築物やまちなみ。
- ・自然の景色に、人工的なものが加わると、「景観」という言葉になると思う。
- ・心が安らぐ自然の景色、地形や風土を生かしたまちなみで、自然と目に入ってくるもの。
- ・自然の風景に地域の様々な資源などが調和していること。
- ・人工的なものと、自然の景色のバランス。
- ・自然とマッチした、心が和む空間景色。
- ・陸、海、空。

など、様々な意見がありました。



より多くの方が『景観』を身近に感じ、『景観』について考えるようになるとういすね。

『いいえ』と答えた人は、

- ・景観…？わからないです。
- ・景観って景色じゃないの？
- ・もみじというイメージ。
- ・最近聞くようになった言葉。
- ・口に出すよりは、目で見る言葉のように思う。
- ・街、町、まち、マチ？

などといった意見が、多くありました。

思ったよりも、多くの方が『景観』とはどんなものかを知っているようですね。

Q.あなたの考える「良い景観」はどこですか？



山古志の棚田は幻想的な景観を生み出すんだ。

栃尾の雁木通りは、歴史的な雰囲気を感じることができて、とてもいいと思うわ。



はちこくやま あいはらかんのどう 小国の八石山と相野原観音堂の景観は、これからもずっと残していきたいよね。



和島には、良寛さまゆかりの史跡が多いわ。



寺泊の山側から海を眺めた時の景観は開放感いっぱい！



越路のもみじ園では、日本の秋を感じることができます。



ここに取り上げたものは、アンケートのほんの一部です。

このほかにも、

- ・信濃川と河川敷
 - ・長生橋
 - ・撰田屋の古いまちなみ
 - ・蓮花寺の大杉
 - ・らくさんてい
 - ・楽山亭から眺める市街地
- などの意見がありました。

アンケートにご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました。

専門家の考える『景観』とは？お話を聞いてみましょう！

裏のページへ…

新発見！！穴場スポット

知る人ぞ知るすてきな景観をご紹介します！！



長岡市小国町のほうざかにある、小国和紙生産組合のこうそはたけ楮畑です。楮は和紙の原料です。写真は芽のせんてい剪定をした7月のもので、背丈が2mもあり、ここからまた4～5mまで成長します。一面に広がる楮畑は圧巻です！



長岡の北東部、中之島のおおめしんてん大沼新田地内には、多数の白鳥が稲刈後のおちほ落穂を求めて、10月から3月初旬までのたんすい湛水状態の時に飛来します。白鳥にとって、ここは最高の食事場なのかもしれません。写真は弥彦山をバックに撮ったもので、この時期だけの景観です。

—専門家からみた景観とは—

景観という言葉は、英語では ^{タウンスケープ} townscape といいます。オックスフォード英語辞典によると、1856年に初めて出てきた言葉で、歴史的にみてもわりと新しい言葉です。日本では、美しい人工の空間「都市美」という概念で、^{がいねん} 美観地区を倉敷市が1969年に日本で初めて指定しました。これまで日本では、歴史的街並みが「景観」という概念に近かったのです。長岡では、15年ほど前に野立て看板規制のルールを作ろうとしたことが、景観を議論した初めての試みだと思います。これは、風景という自然の景観を人工的なもので損なわないようにするために、どうするべきかを問う新しい視点だったと思います。その後、時代は景観を重要ととらえるようになり、景観法が平成16年に施行されました。

長岡の街づくりが始まって十数年。市役所の機能が大手通りに移り、市民の広場ができ、新しいビルが建つ今、新しい長岡の街はどういう風にしなればいけないのか。市民が、街を美しくするために何をすべきか、ということを検討して、景観を乱すものを排除しなければなりません。長岡で人工的に街をつくる時に一番プラスになるのは、自然環境である信濃川です。これだけの幅の川をふところに抱いている街というのは、おそらく日本では長岡以外にないと思う。それはすごく恵まれた条件。そういう大自然に対して、人工的なものが、障害を与えないような街をつくらなければいけない。長岡は、長岡に住む人たちの力で、21世紀の新しい感覚の「景観」をつくりだし、自分たちが誇りに思える街をつくっていかねばならないですね。



長岡造形大学理事長 豊口 協（長岡市都市景観審議会会長）

わたしたちのケーカン

『あ!!この景観いいな』
と思ったら、携帯で撮って
待ち受けにしてみよう!!



編集後記

「景観ってなんだろう？」をテーマにしたこの景観情報紙。作った私たちも、景観とは何なのかをたくさん考えました。作成していく中で、長岡の良い景観スポットを多く発見することができ、長岡のことも見直しました。この情報紙を多くの方が手に取り、景観について考えることによって、長岡の良き景観を守ってもらいたい。もっと、長岡のことを好きになってもらいたい。この情報紙には、そんな私たちの思いが詰まっています。



長岡景観情報紙

NAGAOKA KEIKAN

平成21年3月発行

発行

長岡市都市整備部都市計画課

編集

原銃之助
粉川陸（長岡造形大学） 高橋南（長岡造形大学）
番場侑太（長岡造形大学） 松澤佑夏（長岡造形大学）

協力

小国和紙生産組合
アンケートにご協力いただいた皆さん